



水道普及は日本の文化を変えた

Popularization of Water Supply Changed Japanese Culture

谷口尚弘
Naohiro Taniguchi

(株)東京設計事務所

1. 日本における水道の普及

日本の水道は昭和30年代から40年代にかけて急速に普及した。昭和25年には約30%であった普及率は50年には90%を達成している。これは経済の高度成長期と軌を一にしている。今、振り返ってみると、これらは別々の分野であるように見えるが、実はこの両者は車の両輪であったと思えてくるのである。

2. 水道普及以前の生活

水道普及以前、人々が生活水を得る水源は川、井戸、用水、溜池、天水等であった。ここから水を汲み、バケツに入れた水を天秤棒で担いで土間にある水甕に運搬するというのは全国的にごく普通に見られる光景であった。しかも、水汲み・運搬の仕事は女性や子供が担う重要な仕事であった。

水汲みは大変な重労働である。従って、人々、特に家事を行う主婦にとっては水をいかに大切に使うかに知恵を絞るのは必然であった。現在のように一度遣った水を使い捨てにすることなど考えられなかった。たとえば、お米のとぎ汁は竹の子を茹でたり、床拭きに再利用された。さらに残った水は庭の菜園に用いるなど、いわばカスケードで繰り返し利用することは当たり前であった。

当時は多くの家族は大家族制で、3世代同居もごく普通で、水の合理的な使い方を姑は嫁に教えた。姑の経験は嫁にとって貴重なものだった。なぜなら、それは嫁にとっても自らの労働を軽減してくれる知恵であったからである。このような関係は若い人が年寄りの知恵を学ぶことであり、大家族制を成り立たせる要因でもあった。

一方、地域においても水源を良い状態に維持するため、共同作業を行ったり、厳格な掟を作って地域ぐるみで水環境を守ってきた。掟を守るために、あちこちに神様がいた。水神様、井戸神様等々である。そして年に一度「水講」で懇親を深めるなど、コミュニティ意識は豊かであった。

3. 水道普及による生活の劇的変化

昭和30年代わが国の経済は急速に回復し、高度成長時代に入った。全国各地から職を求めて人々は都会へ都会へと人口大移動を開始した。このようなことを可能にしたものは何なのだろうか。

水道が引かれた最大のメリット、それは安全な水の確保と水汲みという重労働からの解放である。女性や子供にとってこれは大変な福音であった。子供は学校に行きやすくなり、就学率は向上した。しかし、水環境を守るための共同作業は段々と廃れていき、

神様達も省みられなくなっていった。その一方で、女性は労働時間が軽減され、自らの時間が増えたため、自立が促進され、家庭外で働くことが可能になった。これらのことが核家族化を進行させる要員になったと考えられる。

都会では増え続ける人口を受け入れるため、住宅公団が設立されて住宅団地があちこちに出来た。公団住宅の特徴は内風呂を積極的に取り入れたことである。また、この時代、家庭電化製品が普及し始め、生活スタイルが劇的に変化した。戦後、「ブロンディー」という漫画を見てアメリカン・スタイルの生活に多くの人々はあこがれたものであるが、それが日本において実現したのである。しかし、その反面、地方では人口減少が進み、コミュニティ意識は希薄化し、家族制度も変化していった。

生活スタイルの変化は水の使用量を増加させ、家庭排水が河海の水質汚濁に拍車をかけるという負の要員を生み出した。幸いに下水道整備に大いに力が注がれた結果、公共用水域の水質汚濁はかなり解消されてきた。

昭和27年に厚生省が水道普及のためのキャンペーン映画を作製した。これを見ると、当時の女性や子供の苦勞がよく判る。ここ5~60年の間に日本人の生活、言い換えれば文化はまさに劇的といつてよいほど変化した。これを支えたのがまさに水道の普及と経済成長であることは間違いのないであろう。

4. 途上国への支援

現在国連は「2015年までに安全な水を利用できない人々の割合を半減する」というミレニアム目標を掲げ、先進国は途上国への支援を積極的に行うことになっている。

その手法はさまざまであるが、近代的な水道の普及も重要な施策である。水道の普及はそれ自体喜ばしいことであるが、文化を変えてしまうほどのインパクトもある。途上国への支援を行う場合、わが国がたどった変化を日本の経験として伝えることは大いに意義があろう。ただし、条件は異なるので、その判断は受け入れ国に委ねるのは言うまでもない。

5. 謝 辞

6回にわたりわが国上下水道の歴史の一端を切り取って拙文を書かせていただきました。歴史の見方は視点により全く変わります。それにも拘わらず、お目を通していただけたのであれば、筆者にとっては望外の喜びです。お付き合い下さったことに心から感謝申し上げます。